

甲南大学における「持続可能な」循環型コミュニティの創造 環境ボランティア活動

主旨・目的

近年、環境問題が緊急の課題となっている。そこで私たちは、種々の環境問題の解決に向けて、まずローカルな視点からの活動を実施するとともに、地球環境問題をグローバルな視点からとらえるために本プロジェクトを立ち上げたく考えている。そしてローカルな活動とグローバルな活動を展開することによって、甲南大学における「持続可能な」循環型コミュニティを創造することを計画している。このような主旨にしたがって、本学を中心としながら地域、神戸市、国際間のパートナーシップによる環境教育を推進することを本プロジェクトの目的とする。

一昨年は「甲南大学における循環型コミュニティの創造」というテーマでゴミ分別を推進し、昨年は「甲南大学における循環型コミュニティの創造とパートナーシップ」というテーマでパートナーシップを構築しネットワークを広げた。昨年度について具体的に述べると、学内では、学生部・管財部・甲南大学生協・清掃業者・守衛室・対馬造園などの方々と、また学外では甲南幼・小学校、甲南女子中高、甲南男子中高の生徒たち、さらに神戸市東灘区「水環境センター」とパートナーシップを組み活動することができた。そのおかげで、学内、甲南大学環境教育野外施設（広野）水環境センターなどにおいて循環型コミュニティの創造や環境ボランティア活動を推進することができた。昨年度までの活動を通じて、活動内容がより充実したものとなり、ゴミの4分別においては成果もみられるようになってはいるが、それと同時に、これからの課題も見えてきた。

今回は、三年目となるが、活動の継続の大切さを感じ、また活動をより一層発展させられるように努力していきたいと考えている。そこで今回、「持続可能な sustainable」を新たにキーワードに加え、次世代・将来に向けて展開できる環境活動をおこない、循環型コミュニティの創造を目指す。そして、すべての活動がそれぞれ別個のものとして終わるのではなく、より濃度の濃いパートナーシップの構築や持続可能な未来と社会づくりに貢献するようなネットワーク化を図り、新たな発展へつながるように考えている。

実施方法

プラン :「自給自足生活の体験活動 - 循環型コミュニティの原型の体験 - 」(学部生中心)

(1) 自給自足の生活体験

- ・甲南大学環境教育野外施設（広野）のフィールドでテントを張り自給自足の生活をする。食料は米と塩のみを持って行き、その他のものは現地で調達する。野外施設の畑で収穫された有機野菜をベースとし、山菜や木の実などを集め、食料にする。最終的には、一週間程度の自給自足生活を目指して活動する。簡素な環境の中での自給自足の生活から学ぶ循環型コミュニティの原型の体験は、持続可能な未来を考えていく上での大きな一歩になると考えている。

(2) 甲南大学環境教育野外施設（広野）でのパーマカルチュアの構築

- ・年間を通じて農作業を経験することにより、自然の恩恵や厳しさなどについて学ぶ。その地域や場所の自然特徴を最大限に生かす土地活用によって、永続的農業・永続的な文化(パーマカルチュア)の構築を目指していきたい。また、月に1・2回、甲南3学園(甲南幼小学校・女子中高・男子中高)や参加大学生と一緒に作業し、指導をおこなう。また、収穫された無農薬のサツマイモは、食べ物に含有する残留農薬の影響で奇形ザルが発生している淡路島モンキーセンターへ寄付したいと考えている。

プラン :「キャンパス内のボトムアップ型の環境活動」(学部生中心)

(1) ゴミ分別・リサイクルの促進・緑化

- ・学内でのゴミの4分別(燃えるゴミ/燃えないゴミ/缶・ビン/ペットボトル)を昨年度に続いて環境意識の啓発を呼びかける。ゴミのポイ捨ての防止効果、美化意識の向上、快適な生活空間の創造、資源ゴミのリサイクルの促進などに努める。少しでも多く4分別がおこなわれることで、コストの削減や清掃業者の負担が減るように、また少しでも多くの資源ゴミが利活用されるように4R(Recycle、Reuse、Reduce、Refuse)活動の充実を考えている。
- ・生協の“ほか弁コーナー”で使用されているリサイクル容器(P&P容器)やデポジット制自動販売機の紙コップの回収率向上へ向けて広報活動や摂津祭でのリサイクル活動へ参加する。
- ・毎月刊行される生協の情報パックで、学生に向けて、学内に関する環境活動の呼びかけや環境意識の向上を企図した記事を連載させてもらう予定である。
- ・キャンパス内に花や緑を植え、緑豊かな空間づくりを目指したい。人々の意識が学内の自然へと向けられ、憩いの空間を感じてもらえるようにしたい。
- ・五号館前グラウンドのビオトープの維持・管理を行う。また、住吉川の生態系をビオトープに再現しようと考えている。カワニナ、メダカ、ホタルなどの養殖も予定している。これらの活動によって学内に豊かな自然を復元することを目的としている。

(2) 環境啓発シンポジウムの開催

- ・学生部・管財部・甲南大学生協・清掃業者・守衛室・対馬造園・学生と協力してお互いの情報交流の場を設ける。お互いの活動、立場や意見を話し合い、またその成果や課題を検討することによって、キャンパス内の環境に対する取り組みの充実や環境意識の向上につながるかと考えている。

プラン :「水環境センターなどにおける学社連携による社会活動」(大学院生・研究生中心)

(1) ビオトープ創造活動 「水環境センター」における地域住民との活動

- ・神戸市建設局東部建設事務所「水環境センター」では、その敷地内に地域の環境改善のためにビオトープ建設をおこなうことになった。昨年度、谷口研究室ではその基本計画の作成を依頼され、「水と音のビオトープ」構想計画案を神戸市に提出した。そして今年度から基盤工事が開始されることになった。そこで5年後のビオトープ完成に向けて、谷口研究室が引き続き協力し運営グループの組織化や維持管理のためのパートナーシップのコーディネーターを担っていく予定である。
- ・水環境センターにおいて、地域住民や地元の小中学生を対象とした環境教育のイベントを企画する。また、甲南大学と水環境センターとの共催で大学において水環境と水の大切さについての講習会・シンポジウムを開催する予定である。そのため、積極的に参加し地元住民との交流及びパートナーシップによる活動の推進について考えている。また、神戸市のホームページなどを通じて水環境センターでの活動をPRすることを予定している。

(2) 住吉川環境学習

- ・今年の5月30日に、住吉川で甲南小・甲南女子中・甲南男子高・甲南大学生合同の環境学習がおこなわれる。小・中・高・大学生の縦割りの異年齢集団に分かれて活動をおこなう。具体的な活動内容として、「水質調査班」、「ゴミ調べ班」、「生き物調べ班」、「住吉川の自然を詠む・描く班」、「地域の人々と住吉川班」の5つの班に分かれる。そこへ環境教育カウンセラーとして参加し、指導をおこないながら一緒に活動する予定である。

プラン :「国際的なパートナーシップによる活動」(大学院生・研究生中心、指導教授の協力)

(1) タイ・ラジャバト＝プラナコン王立大学での活動

- ・今年度末に、ラジャバト＝プラナコン王立大学の学生と一緒に、自然環境教育についての情報交流や議論をする学生会議を予定している。また、自然国立公園でのエコ・ツアーやラジャバト＝プラナコン王立大学の講義への参加、マングローブ林の植林、タイの小中学校における環境教育プログラムの視察等を予定している。

(2) カナダ・ヴィクトリア大学での活動

- ・ヴィクトリア大学における講義プログラムで、環境学習フィールド・ツアーへの参加を予定している。南ブリティッシュ・コロンビアにおける原生林(ウィルダネス)の観察や、文化的な史跡訪問、さらに生態学的に貴重な地域への一週間のエコツアーを含む体験学習である。またカナダのネイティヴによる民俗学的なエコライフの一端に触れる体験も実施する。期間は、今年の7月22日から30日の間で予定されている。

(3) インターネットによる情報公開

- ・上述のような国際的なゼミ活動をインターネットのホームページに掲載し、地球規模の環境教育についての情報交流やネットワーク化の促進をはかろうと考えている。

役割分担

谷口研究室 4回生：5名 3回生：10名 大学院生：3名 研究生：2名

プラン : 学部生を中心としておこなう。

プラン : 学部生を中心としておこなう。

プラン : ピオトーブ創造活動は大学院生・研究生を中心としておこない、学部生は環境教育のイベントの企画を担当する。

プラン : ゼミ教員・大学院生・研究生を中心としておこなう。